

実践報告

特別支援学校中学部の3学年にわたる 継続的な生活単元学習の実践

久野隆裕¹⁾・福山祐香²⁾・前山 齊²⁾

(西九州大学子ども学部子ども学科¹⁾, 佐賀県立伊万里特別支援学校²⁾)

(令和2年1月24日受理)

The Practice of Continuous 'Life Unit Learning' for Three School Years in a Junior High School Course of a Special Needs School

Takahiro HISANO¹⁾, Yuka FUKUYAMA²⁾, Hitoshi MAEYAMA²⁾

(*Department of Children's Studies, Faculty of Children's, Nishikyushu University*¹⁾
*Saga Prefectural Imari special needs school*²⁾)

(Accepted January 24, 2020)

Abstract

The purpose of this paper is to report 'life unit learning' continuously practiced for three school years in a junior high school course of a special needs school for the intellectually disabled. The three-year-long 'life unit learning' consisted mainly of units for growing, harvesting and cooking vegetables. As an advanced activity, making aprons for cooking, entertaining families and close friend with vegetable dishes, and making a lunch box for going to a library were added to the unit. In this practical study, we aimed to secure the continuity of learning as much as possible by repetitive learning of similar units, in order for students not to finish intended activities in each unit as temporal ones. As a result, students' interests and motivation for learning increased, and their life skills also improved. In curriculum management when organizing curricula centering on life unit learning, it is most important to set up units from the viewpoint of how to enhance students' lives for independence and social participation, in consideration for the students' ages. Based on this idea, we need to carefully organize the subject contents covered in each unit.

Key words : special needs school 特別支援学校
intellectually disabilities 知的障害
life unit learning 生活単元学習
continuity of learning 学びの継続性
curriculum management カリキュラム・マネジメント

1 はじめに

知的障害教育における生活単元学習は、学校教育法施行規則第130条の2の規定に基づき、各教科、道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて行う指導の1つである。特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）（以下、「各教科等編」という。）では、「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、児童生徒の学校での生活を基盤として、学習や生活の流れに即して学んでいくことが効果的であることから、従前から、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習などとして実践されてきており、それらは「各教科等を合わせた指導」と呼ばれている。」¹⁾と解説されている。

また、各教科等編では、生活単元学習について、「児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際の・総合的に学習するものである。」²⁾と定義づけられている。

したがって、生活単元学習の指導においては、実際の生活上の課題の達成が目指されるが、児童生徒の生活上の課題自体が多様なものであり、さらにその課題の解決に必要な一連の活動が単元に盛り込まれることから、取り扱われる学習内容も非常に多様なものとなる。各学校においては、児童生徒の障害の状態や興味関心等を踏まえ、多様な学習内容を整理し、まとまりを持たせて1つの単元として指導計画が作成される。

さらに、各教科等編では、生活単元学習における単元の期間について、「生活単元学習の指導を計画するに当たっては、1つの単元が、2、3日で終わる場合もあれば、1学期間など長期にわたる場合もあるため、年間における単元の配置、各単元の構成や展開について組織的・体系的に検討し、評価・改善する必要がある。」³⁾ことが示されている。つまり、各単元にどのような内容を盛り込むかだけでなく、各学校の指導計画の中に単元をどのように配置していくかについても、綿密な検討や工夫が求められているのである。

本報告では、知的障害特別支援学校中学部において第1学年当初から第3学年1学期までの長期間にわたり継続的に取り組んだ生活単元学習の、単元の

内容の発展の経過等について報告する。（本報告は、第2・第3著者が取り組んだ実践について、第1著者が整理、検討して報告するものである。）

2 実践の概要

1) 単元のはじまり

本実践は、特別支援学校中学部の知的障害課程の生徒10名が第1学年から第3学年にわたって取り組んだものである。

中学部に入学して最初の生活単元学習で、畑を耕す、堆肥を運ぶなどの学級菜園づくりに取り組み、生徒同士で話し合っって学級菜園の名称を「ベストフレンズファーム」と決めて、生徒が選んだ夏野菜の苗を購入し植えた。その後も、採れた野菜で収穫祭をすることを目標に水やりや草むしり、支柱立てや柵づくりなどを行うことを通して、野菜を収穫するためには継続的な活動が不可欠であることに対する生徒の気づきが芽生えてきたことから、「ベストフレンズファーム」での活動を柱とした単元を継続的に展開していくこととした。

2) 実践期間中の単元（計11単元）

[第1学年時]

時期	単元名
5月	ベストフレンズファーム 夏野菜を植えよう
7月	ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしよう
9月	ベストフレンズファーム 冬野菜を植えよう
11月	ベストフレンズの オリジナルエプロンを作ろう
12月	ベストフレンズファームの冬野菜で 「おもてなし会」をしよう

[第2学年時]

時期	単元名
5月	ベストフレンズファーム 夏野菜を植えよう
7月	ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしよう パート2
9月	ベストフレンズファーム 冬野菜を植えよう
11月	ベストフレンズファーム お弁当を作って図書館へ行こう

[第3学年時]

時期	単元名
5月	ベストフレンズファーム 夏野菜を植えよう
7月	ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしよう パート3

3) 各単元の主な活動内容及び単元間の関連

本報告で取り上げた生活単元学習の11の単元は、3つのタイプに分けることができる。

1つ目は、野菜の播種、苗の定植を中心とする単元で、夏野菜、冬野菜の播種、苗の定植にふさわしい時期に取り組んだ。

2つ目は、収穫した野菜の調理を中心とする単元で、収穫祭を設定した中で、調理活動のほか調理に必要な物品の購入や横断幕の作成等に取り組んだ。

3つ目は、野菜の栽培や調理等の学習経験をもとに発展させた単元で、調理等の際に必要なエプロンを自作する単元や、身近な人を招き、収穫した野菜を使った料理でもてなす会を行う単元、自分たちで作った弁当を持って校外に出かける単元に取り組んだ。

各単元の主な活動内容及び単元間の関連は表1のとおりである。

① 野菜の播種、苗の定植を中心とする単元

野菜の播種、苗の定植を中心とする単元は、第1学年5月の単元「ベストフレンズファーム 夏野菜を植えよう」、9月の「ベストフレンズファーム 冬野菜を植えよう」、第2学年5月の単元「ベストフレンズファーム 夏野菜を植えよう」、9月の「ベストフレンズファーム 冬野菜を植えよう」、第3学年4月の単元「ベストフレンズファーム 夏野菜を植えよう」の5つである。

5つの単元では、

- ・野菜について野菜図鑑やタブレットパソコンで調べる。
- ・畑を耕す、堆肥を運ぶ。
- ・野菜の種や苗を買いに行く。
- ・種をまく、苗を植える。

ことをルーティン活動として位置づけ、継続して繰り返し取り組んだ。同様の活動に継続的に繰り返し取り組むことにより、播種や定植、買い物などのスキルの向上はもとより、活動の手順に見通しを持ち、さらに収穫を期待して意欲的、主体的に活動に取り組む態度を育むことを意図した。

単元が終了した後も、栽培活動に継続的に取り組んだ。生徒で役割を分担したり当番を決めたりして、水やりや草むしり、支柱立てや柵作りなどの活動に日常的に取り組むように仕組んだ。

② 収穫した野菜の調理を中心とする単元

夏野菜を植える単元の後には、毎年度7月に調理活動を中心とする単元「ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしよう」に取り組んだ（パート3まで、計3単元）。「夏野菜を植えよう」単元とのパッケージにして、生徒が育て、収穫したての野菜を用いることにより調理活動などに対する生徒の関心を高め、積極的に活動に取り組む姿勢や態度の育成を図った。

また、3学年にわたって単元を繰り返すことによって、調理方法の理解や調理の技能の習熟、定着を図るとともに、調理の手順や必要な材料等の購入などについて生徒が見通しを持って活動に取り組めるようにし、さらに、家庭など学校外の日常生活においても主体的に調理に取り組もうとする意欲や態度が身につくことを期待した。

③ 野菜の栽培や調理等の学習経験をもとに発展させた単元

野菜の栽培や調理等の学習経験をもとに発展させた単元としては、第1学年11月の単元「ベストフレンズのオリジナルエプロンを作ろう」、同12月の単元「ベストフレンズファームの冬野菜で『おもてなし会』をしよう」、第2学年11月の「ベストフレンズファーム お弁当を作って図書館へ行こう」の3単元である。

単元「ベストフレンズのオリジナルエプロンを作ろう」は、7月の単元「ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしよう」に取り組んだ際に、自分でエプロンのひもを結んだり、三角巾を身につけたりすることが難しく、もどかしく思う生徒がいたことをきっかけに、「今後3年間の調理活動に使用するエプロンを自分たちで作る」という目標を設定して取り組んだ単元である。

単元「ベストフレンズファームの冬野菜で『おもてなし会』をしよう」は、それまでに他の学年や学級の生徒から、中学部入学時の歓迎会をしてもらったり、手作りのお菓子をもらったりするなど「おもてなしを受けた」経験を踏まえ、「今度は自分たちがもてなす側として、これまで頑張ったことや成長したことを生かし、『おもてなし会』を開催する」ことをテーマとして展開した単元である。

単元「ベストフレンズファーム お弁当を作って

表1 各単元の主な活動内容及び単元間の関連

学年	月	単元名	主な活動内容		
			(野菜の播種、苗の定植を中心とする単元)	(収穫した野菜の調理を中心とする単元)	(学習経験をもとに発展させた単元)
第1学年	5月	ベストフレンズファーム 夏野菜を植えよう	<ul style="list-style-type: none"> 野菜図鑑を見て、夏野菜を知る。 畑を耕す。 堆肥を運ぶ。 徒歩で苗を買いに行く。 苗を植える。 		
	7月	ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしよう		<ul style="list-style-type: none"> 横断幕をつくる。 買い物をする。 収穫する。 調理する。 最終日に「収穫祭」をする。 	
	9月	ベストフレンズファーム 冬野菜を植えよう	<ul style="list-style-type: none"> 野菜図鑑やタブレットパソコンで調べ、冬野菜を知る。 畑を耕す。 堆肥を運ぶ。 市内巡回バスを利用し、種を買いに行く。 種をまく。 		
	11月	ベストフレンズの オリジナルエプロンを作ろう			<ul style="list-style-type: none"> どんなエプロンを作るか話し合う。 デザイン画を描く。 サイズを測る。 市内巡回バスを利用し、布を買いに行く。 エプロンを作る。 ファッションショーをする。
	12月	ベストフレンズファームの 冬野菜で「おもてなし会」をしよう			<ul style="list-style-type: none"> おもてなし会の内容を相談して決める。 会場装飾をする。 ラミネーターでランチョンマットを作る。 司会、進行の練習をする。 必要な物の買い物をする。 収穫する。 調理する。 最終日に「おもてなし会」をする。
	5月	ベストフレンズファーム 夏野菜を植えよう	<ul style="list-style-type: none"> 野菜図鑑を見て、植える野菜を調べる。 畑を耕す。 堆肥を運ぶ。 徒歩で苗を買いに行く。 苗を植える。 		
第2学年	7月	ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしようパート2		<ul style="list-style-type: none"> 横断幕を作る。 食材の買い物をする。 収穫する。 調理する。 最終日に「収穫祭」をする。 	
	9月	ベストフレンズファーム 冬野菜を植えよう	<ul style="list-style-type: none"> 野菜図鑑を見て、植える野菜を調べる。 畑を耕す。 堆肥を運ぶ。 徒歩で苗を買いに行く。 苗を植える。 		
	11月	ベストフレンズファーム お弁当を作って図書館へ行こう			<ul style="list-style-type: none"> 3大栄養素を知る。 お弁当の中身を決める。 材料や必要な物の買い物に行く。 調理する。 図書館でお弁当を食べる。
	4月	ベストフレンズファーム 夏野菜を植えよう	<ul style="list-style-type: none"> 野菜図鑑を見て、植える野菜を調べる。 畑を耕す。 堆肥を運ぶ。 徒歩で苗を買いに行く。 苗を植える。 		
第3学年	7月	ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしようパート3		<ul style="list-style-type: none"> 横断幕を作る。 食材の買い物をする。 収穫する。 調理する。 最終日に「収穫祭」をする。 	

・ 破線矢印は同様の活動内容で継続的に取り組んだ単元の流れを、実践矢印は過去の単元の学習経験をもとに発展させた単元の流れを示している。

「図書館へ行こう」は、それまでに経験した三度の調理を中心とする単元の中で、メニューに合わせて役割分担して調理活動を行い、生徒なりの調理のスキルが身についたことを生かした単元である。栄養教諭をゲストティーチャーとして栄養素や彩りの良い弁当について学習するなど、それまでに取り組んだことのない活動を盛り込んで、発展的に取り組んだ。

3 単元の展開例

1) 「ベストフレンズファームの収穫祭をしよう」 (第1学年 7月)

① 単元について

本単元は、中学部入学後間もない時期から継続的に取り組んできた「ベストフレンズファーム」の活動の一環として取り組んだものである。

4月に生徒により畑を耕し、堆肥を運んで学級菜園を作ったが、当初は積極的に活動に取り組む生徒もいれば、あまり関心を示さない、仕方なく取り組むなど生徒の様子はさまざまであった。しかし、野

菜が日に日に大きくなる姿を目にしてからは、菜園の手入りに意欲的に取り組む生徒が増えた。

6月には、ファームで初収穫したきゅうりとピーマンを、塩昆布和えにして試食をおこなった。その際、普段は野菜が苦手な生徒も「おいしいね。」と言って食べるなど、自分たちが育てた野菜を食べた満足感や誇らしさを感じ取れた。

本単元では、単元の最終日に「収穫祭」を設定し、生徒に対して「たくさん収穫できたことを、みんなで喜ぶ。」「みんなで一生懸命育てた野菜を、おいしく食べる。」ことを意識づけた。メニューについては、単元直前にクラスで話し合いを行い、3品を作ることを決めた。野菜の切り方（輪切り、せん切り等）や調理法（茹でる、炒める等）の学習や、調理に必要な材料の購入計画の立案、材料等の購入、野菜の収穫・調理などに取り組み、日常生活においても自分で調理したいという意欲を高め、自分で買い物に行き、調理や生活に必要なものを調達して調理することにつながることを期待した。

② 単元の目標

- たくさん収穫できたことをみんなで喜ぶ。
- 自分の役割がわかり、買い物や調理に取り組む。
- 調理手順がわかり、楽しく調理をする。
- 安全や衛生に注意し、ルールを守って調理をする。
- グループで協力して作業を進める。
- ファームでの頑張りを互いにねぎらいながら、友だちや教師と楽しく会食する。

③ 日程と主な活動

第1日	ベストフレンズファームの手入れ
第2日	ベストフレンズファームの手入れ 収穫祭の横断幕作り
第3日	調理オリエンテーション (メニューや材料の確認、グループにわかれて手順書を見ながら役割決め、調理実習で気を付けることを確認)
第4日	採れたての野菜の調理 ・切り方（輪切り、せん切り等） ・調理法（炒める、茹でる等） ※切った野菜で、ピザトースト作り
第5日	調理計画、購入計画の立案
第6日	買い物学習
第7日	冷やし中華を作ろう
第8日	夏野菜ピザを作ろう

第9日	かぼちゃのプリンを作ろう これまでの調理の振り返り 収穫祭の打ち合わせ
第10日	ベストフレンズファームの収穫祭

2) 「ベストフレンズのオリジナルエプロンを作ろう」(第1学年 11月)

① 単元について

7月に実施した単元「ベストフレンズファームの収穫祭をしよう」において、生徒は自分たちで栽培、収穫した夏野菜の調理活動に取り組んだ。調理自体には各自が力を発揮し、意欲的に取り組む姿が随所に見られた。

しかし、身支度を整える際、自分でエプロンのひもを結ぶことや、三角巾をつけることが難しい生徒がいたため、ボタン1つで着用できるエプロンとゴムを使ったかぶりやすい三角巾を作ることを目標とした単元を設定した。

初日のオリエンテーションではどのようなエプロンを作るのかについての話し合い活動を行い、①自分一人で着られるエプロン、②肩からずり落ちないエプロン、③好きな形や色や柄のエプロン、④自分の体に合うサイズのエプロン、⑤調理が楽しく、ワクワク・ドキドキするエプロンの5点を生徒と確認して、生徒の目標意識を高めるようにした。

エプロンのデザインについては、各自が頭囲や腰回りを採寸した上で、好きな柄の布地を選ぶようにし、最寄りの手芸店に校外学習に出かけて購入した。また、エプロン等の制作の前に「お裁縫検定」と称して、並縫い、アイロンがけ、ミシン直線縫いを行い、基礎的な技能の向上に関する生徒の意欲向上を図った。

制作の段階では工程ごとに手順書を用意し、工程自体も細分化して、生徒の状況に応じて取り組む工程を選択できるようにした。出来上がったエプロンと三角巾は、単元の最終日にファッションショーを行って各自が披露し、満足感を得られるようにした。

② 単元の目標

- エプロンと三角巾の制作の手順を知り、出来上がりを期待し、楽しんで制作に取り組む。
- ミシンや針、アイロンの安全な使い方を知るとともに、被服室でのきまりを守って安全に制作する。
- ミシンを用いた直線縫いができる。

③ 日程と主な活動

第1日	オリエンテーション（話し合い活動、エプロンのイメージ作り） 採寸（頭囲、腰回り） 「お裁縫検定」（並縫い、アイロンがけ、ミシン直線縫い）
第2日	校外学習（布地の購入）
第3日	エプロン制作① ・布にエプロン型の線を引く ・布に縫い代の線を引く ・縫い代の線に沿って裁断する ・裁断した布のアイロンがけ
第4日 第5日	エプロン制作② ・しつけ縫い ・ミシン縫い
第6日	エプロン制作③ ・仕上げ ファッションショー

3) 「ベストフレンズファーム お弁当を作って図書館へ行こう」(第2学年 11月)

① 単元について

本学年の生徒は、本単元までにベストフレンズファームにおける野菜の栽培や、収穫した野菜を用いた調理を中心とした生活単元学習の計7つの単元に取り組んできており、メニューに合わせてグループに分かれ、役割分担をして調理活動を行い、各生徒なりに調理スキルも向上してきた。

また、生活単元学習と並行して作業学習にも取り組んできており、年間を通して作業班に属して取り組む作業学習のほか、外部の事業所から委託された作業に集中的に取り組む校内実習にも取り組み、体力が向上するとともに、責任を持って働くことの大切さが理解できるようになり、将来の働く生活についてイメージがめばえ始めてきた。

本単元では、これまで取り組んできた調理の経験を生かすことができ、さらに卒業後の進路先に持参することも考えられることから、弁当を自分たちで作ることを取り上げることにした。しかし、近年は学校行事が精選され、生徒が学校行事等の中で弁当に触れる経験が減ってきている。そこで、本単元では、弁当を作ることを目的を理解するとともに、弁当を作るだけでなく、栄養のバランスの取れた献立に対する理解を深めながら自分が食べたい弁当をイメージして、楽しみながら弁当を作り、実際に校外の公共施設を利用する際に食べるといった一連の活動に主体的に取り組み、将来の食生活をよくするこ

とに主体的に関わろうとする態度を育むことを目指した。

単元の実施に当たっては、単元の序盤に栄養教諭の講話を行い、彩りよく弁当を作ることが栄養のバランスのよい弁当につながるなど基礎的な知識を得た上で、自分たちで作りたい弁当について話し合った。生徒の調理スキルにも配慮しながら一人一品のおかず作りを担当するようにして、全員で協力して弁当を作ることにした。

② 単元の目標

- 楽しく弁当を作る中で弁当を作る目的や意義を理解し、自立した生活への意識を高める。
- 弁当作りにおける自分の役割がわかり、買い物や調理に主体的に取り組む。
- 自分の役割を果たしながら、全員で協力して弁当を作る。
- 安全や衛生に注意し、ルールを守って調理をする。
- 交通安全を意識するとともに、利用時のマナーを守って図書館を利用する。

③ 日程と主な活動

第1日	オリエンテーション ・自分の食べたい弁当の絵を描く
第2日	栄養教諭の講話（栄養素や彩りの良い弁当について） 話し合い活動（作りたい弁当について）
第3日	芋ほり 校外学習の計画（食材を考える、食材の分量の計算）
第4日	校外学習（弁当の材料購入） おにぎり作りの練習
第5日	ミニ弁当作り～学校中庭で会食
第6日	さつま芋を使ったおやつ作り
第7日	校外学習（弁当の材料購入） おにぎり作りの練習
第8日	ミニ弁当作り～学校中庭で会食
第9日	弁当作り、校外学習（図書館、1回目）
第10日	弁当作り、校外学習（図書館、2回目）

4 生徒の変容

1) 野菜の播種、苗の定植を中心とする単元及び単元後の栽培活動における変容

中学部に入学して間もない時期に「ベストフレンズファーム」を作り、活動を始めたが、当初は関心を示す生徒はいたものの、関心がなかったり活動が苦手な生徒もいるなど、生徒の反応はさまざま

あった。野菜の成長を目の当たりにして関心を持ち、収穫した野菜を調理して食べることに興味を持ちたりする生徒の姿は見られたが、単元終了後も引き続きファームの手入れをするなど野菜の栽培自体に意欲的に取り組む姿はあまり見られなかった。

第2学年でも活動は継続したが、生徒によるファームの手入れはあまり行き届かなかった。そのため夏野菜の生育が悪く、収穫量が前年度を大きく下回ってしまった。収穫量が少ないことは生徒にも理解できたため、その理由を考えるよう促すと、水やりや草取りがあまりできなかったなど、それまでの栽培活動が不十分だったことに気付く言葉が生徒の中から聞かれた。

このことがきっかけで、生徒は自分たちで当番を決めて栽培活動に主体的に取り組むようになった。収穫した野菜を調理して食べることについては、過去に経験した単元の中で生徒が期待する活動として定着していたため、栽培活動は次第に軌道に乗っていった。教師の手本を見てスコップで土を耕したり、一輪車で堆肥を運んだりすることもできるようになった。

第3学年になると、野菜の栽培自体に見通しと期待感を持つ生徒が増えた。それまでの各単元において播種、定植の前に野菜図鑑やタブレットパソコンで野菜の種類を調べることに繰り返し取り組んできたが、第3学年になると、生徒の中から育てたい、あるいは収穫して食べたい野菜について意見が出るようになった。そこで、夏野菜を栽培するに当たって、生徒の意見を尊重して9種類の野菜(なす、きゅうり、トマト、ピーマン、パプリカ、トウモロコシ、かぼちゃ、メロン、スイカ)を選んだ。生徒は野菜に関する知識を広げるとともに、栽培の手順に見通しを持ち、手際よく栽培活動が進められるようになった。活動によっては生徒が自然に集まり、協力して作業を進める様子も見られた。

2) 収穫した野菜の調理を中心とする単元における変容

各学年で野菜を植え、栽培し、収穫して調理するという一連の活動に取り組んだ。

第1学年では、野菜を植えたり栽培したりする段階で興味や関心をあまり示さない生徒が見られたが、調理して食べることに活動を広げると、栽培した成果を生徒が実感し、「楽しかった」、「またやりたい」という自発的な感想が聞かれた。

第2学年になると、調理して食べることへの見通しと期待感が高まり、メニューに関する話し合いでは、作りたいものについて生徒の中から具体的な意見が出た。また、野菜の切り方や焼く、炒めるなどの調理法が分かるようになり、生徒なりに調理のスキルが上達した。それに伴い自信もついて、「次は〇〇がやりたい」という発言が聞かれるようになり、自分が受け持った役割に責任を持って果たそうとする態度が身についた。さらに、友達の調理の様子にも関心を示し、友達を認めたりほめたりする発言も活発だった。

第3学年の単元は、3学年にわたる「ベストフレンズファーム」での学習の集大成と位置づけた。収穫や調理を存分に楽しみ、生徒一人一人ができるようになったこと、得意なことを生かしてチャレンジできるようにした。事前の話し合いで決まったメニューは前年度の単元の3つから5つに増え、役割を細分化して取り組み、生徒がそれぞれ身につけたスキルを生かして5つのメニューを作り上げた。中には、1つのメニューの全工程を担い、一人で作り上げる生徒もいた。友だちが作ったメニューを称賛したり、努力をねぎらったりする発言が聞かれ、生徒同士の人間関係の深まりが感じられた。「来年もやりたかったね」と「ベストフレンズファーム」の活動が終わることを惜しむ発言も聞かれた。

3) 野菜の栽培や調理等の学習経験をもとに発展させた単元における変容

第1学年の単元「ベストフレンズのオリジナルエプロンを作ろう」では、調理活動の際に既成のエプロンや三角巾をうまく身につけられなかった生徒がいたことをきっかけに、一人で身につけられるオリジナルのエプロンや三角巾を作ることをテーマに掲げた。生徒の実体験から派生させたテーマであったためか、生徒の意欲は高かった。好きな布を生徒自身が手芸店で選び、購入したことは、生徒の目的意識と出来上がりへの期待感を高めることにつながった。エプロンづくりの工程を細分化し、生徒のスキルに応じて役割を割り当てたことで、全員が最後まで活動に取り組むことができた。ミシンやアイロンなど扱ったことのない器具の操作にも教師の支援を受けながら挑戦し、縫工の経験やスキルの幅を広げることができた。出来上がったエプロンと三角巾を身につけてファッションショーを行い、次の調理活動への生徒の期待感が高まった。

第1学年の単元「ベストフレンズファームの冬野菜で「おもてなし会」をしよう」では、調理活動だけでなく、身近な人をもてなすことを単元に盛り込んだことで、相手を意識し、人と接する喜びや楽しさを味わうとともに、もてなしの言葉をかけるなど普段の学校生活よりもやや改まった場面での人との関わり方を体験することができた。また、自分で作ったエプロンや三角巾を身につけることを通して、一人で身支度をすることや身だしなみに気をつけることを意識化することができた。

第2学年の単元「ベストフレンズファームお弁当を作って図書館へ行こう」では、繰り返し取り組んで上達した調理スキルを生かし、一人一品のおかずを作ることに挑戦した。栄養教諭による講話の中で、栄養と食材の彩りを関連させて説明することで、栄養のバランスに関する生徒の理解が深まった。また、公共施設である図書館を利用することを通して公共のマナーの大切さを理解し、図書館内での行動、ふるまい方についても経験を積むことができた。さらに、弁当を作る目的から発展させ、家庭の外で食事をとること、つまり将来働くようになった時の昼食を意識づけ、自分の将来像を描ききっかけにもなった。そして何より全員がそれぞれ一品のおかずを作り、持ち寄って盛りつけ、1つの弁当が出来上がるプロセスを経験して生徒の一体感が強まった。

5 単元で取り扱った教科の主な内容

知的障害特別支援学校においては、児童生徒の障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を踏まえ、個に応じて各教科の具体的な指導内容が設定される。

生活単元学習では、広範囲に各教科等の目標や内容が扱われる。また、生活単元学習の指導に当たっては、児童生徒の学習活動は、実際の生活上の目標や課題に沿って指導目標や指導内容を組織されることが大切である⁴⁾。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示されている各教科のうち、本報告における各単元で取り扱った教科の主な内容は表2-1、2-2、2-3、2-4、2-5のとおりである。各表に示した教科の内容は、すべての生徒に一斉に指導した内容ではなく、生徒の障害の状況やそれまでの学習の到達度等を踏まえて個別に取り扱った内容のうち主なものをまとめたものである。

なお、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領

第1章第8節1の(4)の規定（中学部の各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部を、当該各教科に相当する小学部の各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部によって、替えることができること。）⁵⁾に基づき、生徒の発達段階等に応じて小学部の各教科の内容も取り扱っていることに留意されたい。

6 まとめ

1) 学びの継続性、反復性の視点から

本報告における11単元のうち、5単元は野菜の播種、苗の定植を中心とする単元であり、また、これら5単元のうち単元「夏野菜を植えよう」の後には、収穫した野菜の調理を中心とする単元「収穫祭をしよう」を実施した。複数の単元をいわばパッケージ化し、3学年にわたって継続的、反復的に取り組んだのである。

各教科等編では、「知的障害のある児童生徒の学習上の特性としては、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難しいことが挙げられる。そのため、実際の生活場面に即しながら、繰り返して学習することにより、必要な知識や技能等を身に付けられるようにする継続的、段階的な指導が重要となる。」⁶⁾ことが示されている。

本報告の実践では、できる限り学びの継続性を維持し、同様の単元に反復して取り組むことにより、それぞれの単元における活動を一過性の体験活動に終わらせないことを意図した。

特別支援学校における指導計画は、一般には単年度のもので作成されることが多く、本実践についても当初は第1学年の生活単元学習として計画したものだ。しかし、第1学年時の学びをそのまま生かすことにして、期間を単年度に限らず中学部の3学年にわたって継続的に繰り返し取り組んだ結果、生徒は先を見通して活動する力を着実に身につけ、それに伴って学習活動に対する期待感を高め、主体的に活動に取り組むことが多くなった。また、自らの活動にととまらず、周囲の友達の活動にも意識が向くようになり、意見を交わしたり、相手を励ましたり、役割を分担しながら協力して活動に取り組んだりする姿がみられるようになった。このように学習に関する関心、意欲が高まるにつれて、畑の手入れや管理、調理等のスキルも向上した。うまくでき

表 2-1 野菜の播種，苗の定植を中心とする単元において取り扱った各教科の主な内容

単元	主な学習活動	教科名	学部・段階	教科の主な内容	
ベ ス ト フ レ ン ズ フ ア ー ム 夏 野 菜 を 植 え よ う 冬 野 菜 を 植 え よ う	野菜図鑑を見て、植える野菜を調べる。	生活 国語	小学部3段階	サ 生命・自然	(イ) 日常生活に関わりのある生命や自然について関心をもって調べること。
			小学部1段階	C 読むこと	ア 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。 イ 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。
	畑を耕す。堆肥を運ぶ。苗を植える。	理科	中学部1段階	A 生命	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ⑦ 生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。 ⑧ 昆虫や植物の育ち方には一定の順序があること。
				ア 身の回りの生物	(イ) 身の回りの生物について調べる中で、差異点や共通点に気付き、生物の姿についての疑問をもち、表現すること。
		理科	中学部1段階	B 地球・自然	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ⑦ 日陰は太陽の光を遮るとできること。 ⑧ 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさに違いがあること。
				ア 太陽と地面の様子	(イ) 日なたと日陰の様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、太陽と地面の様子との関係についての疑問をもち、表現すること。
		職業・家庭 (職業分野)	中学部2段階	B 地球・自然	(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ⑦ 水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。 ⑧ 水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。
				ア 太陽と地面の様子	
	徒歩で苗を買いに行く。	生活	小学部3段階	A 職業生活	ア 働くことの意味 (イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。 イ 職業 (ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ⑨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。 ⑩ 作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 ⑪ 作業の確実性や持続性、巧緻性等を身に付けること。
				ク 金銭の扱い	(ア) 日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いに慣れること。 (イ) 金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けること。
		国語	中学部1段階	ケ きまり	(ア) 日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする事。 (イ) 簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。
				知識及び技能	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (イ) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。
	社会	中学部2段階	知識及び技能	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	
			A 聞くこと・話すこと	エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。	
	数学	中学部1段階	イ 公共施設と制度	⑦ 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。	
			中学部2段階	A 数と計算	⑦ 3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ること。 ⑧ 計算機を使って、具体的な生活場面における加法及び減法の計算ができること。
職業・家庭 (家庭分野)	中学部1段階	C 消費生活・環境	(ア) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする事。 (イ) 生活に必要な物を選んだり、物を大切にしようとする事。		

表 2-2 収穫した野菜の調理を中心とする単元において取り扱った各教科の主な内容

単元	主な学習活動	教科名	学部・段階	教科の主な内容	
ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしよう ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしよう ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしよう ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしよう ベストフレンズファーム 夏の収穫祭をしよう	横断幕をつくる。	図画工作	小学部 3 段階	A 表現 〔共通事項〕 (イ) 様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品をつくったりすること。 (イ) 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。	
	収穫する。	美術	中学部 2 段階	A 表現 (イ) 材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。	
		生活	小学部 2 段階	サ 生命・自然 (ア) 日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。	
		理科	中学部 1 段階	A 生命 ア 身の回りの生物 (ウ) 生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。 (イ) 昆虫や植物の育ち方には一定の順序があること。	
		職業・家庭 (職業分野)	中学部 2 段階	A 職業生活 ア 働くことの意義 (イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。 イ 職業 (ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 (ウ) 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。 (エ) 作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 (イ) 作業の確実性や持続性、巧緻性等を身に付けること。	
		生活	小学部 3 段階	カ 役割 (ア) 様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとすること。 (イ) 集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。	
		算数・数学	小学部 3 段階	C 測定 (ウ) 長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。 (イ) 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較すること。	
		調理する。		中学部 1 段階	C 測定 (ウ) かさの単位 [ミリリットル (mL)、デシリットル (dL)、リットル (L)] について知り、測定の意味を理解すること。 (エ) 長さ、重さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を選択したり、計器を用いて測定したりすること。
			職業・家庭 (家庭分野)	中学部 2 段階	B 衣食住の生活 ウ 調理の基礎 (ア) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。 (イ) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。

表 2 - 3 野菜の栽培や調理等の学習経験をもとに発展させた単元において取り扱った各教科の主な内容 1

単元	主な学習活動	教科名	学部・段階	教科の主な内容	
ベ ス ト フ レ ン ズ の オ リ ジ ナ ル エ プ ロ ン を 作 ろ う	どんなエプロンを作るか話し合う。	国語	中学部 2 段階	知識及び技能	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。
				A 聞くこと・話すこと	イ 相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。 ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。 エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。 オ 物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめること。
	デザイン画を描く。	職業・家庭(家庭分野) 図画工作	小学部 3 段階	B 衣食住の生活	(ア) 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。 (イ) 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。
				A 表現	(ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから表したいことを思い付くこと。 (イ) 様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品をつくりたりすること。 〔共通事項〕 (ア) 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと。 (イ) 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。 (ア) 経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。
	サイズを測る。	美術	中学部 2 段階	A 表現	(ア) 経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。
				数学	中学部 1 段階
	市 内 巡 回 バ ス を 利 用 し 、 布 を 買 い に 行 く。	体育	小学部 3 段階	G 保健	ア 健康や身体の変化について知り、健康な生活に必要な事柄に関する基本的な知識や技能を身に付けること。
				保健体育	中学部 1 段階
		生活	小学部 3 段階	イ 安全	(ア) 日常生活の安全や防災に関心をもち、安全な生活をするよう心がけること。 (イ) 安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。
				ク 金銭の扱い	(ア) 日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いに慣れること。 (イ) 金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けること。
				ケ きまり	(ア) 日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする事。 (イ) 簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。
		国語	中学部 1 段階	知識及び技能	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (イ) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。
中学部 2 段階				知識及び技能	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。
中学部 2 段階				A 聞くこと・話すこと	エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。
社会		中学部 1 段階	イ 公共施設と制度	㉞ 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。	
			数学	中学部 2 段階	A 数と計算
エプロンを作る。	職業・家庭(家庭分野) 算数	小学部 3 段階	C 消費生活・環境	(ア) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする事。 (イ) 生活に必要な物を選んだり、物を大切にしようとする事。	
			C 測定	〔知識及び技能〕 ㉞ 長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。 〔思考力、判断力、表現力等〕 ㉞ 身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。	
職業・家庭(家庭分野)	中学部 2 段階	B 衣食住の生活	(ア) 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。 (イ) 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。		

表2-4 野菜の栽培や調理等の学習経験をもとに発展させた単元において取り扱った各教科の主な内容 2

単元	主な学習活動	教科名	学部・段階	教科の主な内容	
ベストフレンズファームの冬野菜で「おもてなし会」をしよう	おもてなし会の内容を相談して決める。	国語	中学部2段階	知識及び技能	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。
				A 聞くこと・話すこと	イ 相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。 ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。 エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。 オ 物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめること。
	会場装飾をする。ラミネーターでランチョンマットを作る。	美術	中学部2段階	A 表現	(イ) 材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。
	司会、進行の練習をする。	国語	中学部2段階	A 聞くこと・話すこと	イ 相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。 ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。 エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。
	必要な物の買い物をする。	生活	小学部3段階	イ 安全	(ア) 日常生活の安全や防災に関心を持ち、安全な生活をするよう心がけること。 (イ) 安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。
				ク 金銭の扱い	(ア) 日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いに慣れること。 (イ) 金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けること。
				ケ きまり	(ア) 日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする事。 (イ) 簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。
		国語	中学部1段階	知識及び技能	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (ウ) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。
				中学部2段階	知識及び技能
		社会	中学部1段階	イ 公共施設と制度	(ウ) 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。
数学				中学部2段階	A 数と計算
職業・家庭(家庭分野)		中学部1段階	C 消費生活・環境	(ア) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする事。 (イ) 生活に必要な物を選んだり、物を大切にしようとする事。	
収穫する。		生活	小学部2段階	サ 生命・自然	(ア) 日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。
				理科	中学部1段階
	職業・家庭(職業分野)	中学部2段階	A 職業生活	ア 働くことの意義 (イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。 イ 職業 (ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 (ウ) 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。 (イ) 作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 (ウ) 作業の確実性や持続性、巧緻性等を身に付けること。	
	調理する。	生活	小学部3段階	カ 役割	(ア) 様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとすること。 (イ) 集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。
算数・数学				小学部3段階	C 測定
職業・家庭(家庭分野)		中学部2段階	B 衣食住の生活 ウ 調理の基礎	(ア) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。 (イ) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。	
	国語		中学部1段階	知識及び技能	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (ウ) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。
中学部2段階		知識及び技能		(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	
最終日に「おもてなし会」をする。	国語	中学部2段階	A 聞くこと・話すこと	エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。	

表 2-5 野菜の栽培や調理等の学習経験をもとに発展させた単元において取り扱った各教科の主な内容 3

単元	主な学習活動	教科名	学部・段階	教科の主な内容		
ベストフレンズファーム お弁当を作って図書館へ行く 図書館でお弁当を食べる。	3大栄養素を知る。 お弁当の中身を決める。 材料や必要な物の買い物に行く。	職業・家庭 (家庭分野)	中学部2段階	B 衣食住の生活 イ 栄養を考えた食事	(ア) 身体に必要な栄養について関心をもち、理解し、実践すること。 (イ) バランスのとれた食事について気付き、献立などを工夫すること。	
			小学部3段階	イ 安全	(ア) 日常生活の安全や防災に関心をもち、安全な生活をするよう心がけること。 (イ) 安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。	
		生活	小学部3段階	ク 金銭の扱い	(ア) 日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いに慣れること。 (イ) 金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けること。	
				ケ きまり	(ア) 日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする事。 (イ) 簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。	
		国語	中学部1段階	知識及び技能	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (イ) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	
				中学部2段階	知識及び技能	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。
				中学部2段階	A 聞くこと・話すこと	エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。
		社会	中学部1段階	イ 公共施設と制度	(ア) 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。	
			数学	中学部2段階	A 数と計算	(ア) 3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ること。 (イ) 計算機を使って、具体的な生活場面における加法及び減法の計算ができること。
		職業・家庭 (家庭分野)	中学部1段階	C 消費生活・環境	(ア) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする事。 (イ) 生活に必要な物を選んだり、物を大切にしようとする事。	
			生活	小学部3段階	カ 役割	(ア) 様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとする事。 (イ) 集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。
		算数・数学	小学部3段階	C 測定	(ア) 長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。 (イ) 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つかで大きさを比較すること。	
				中学部1段階	C 測定	(ア) かさの単位 [ミリリットル (mL)、デシリットル (dL)、リットル (L)] について知り、測定の意味を理解すること。 (イ) 長さ、重さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を選択したり、計器を用いて測定したりすること。
		職業・家庭 (家庭分野)	中学部2段階	B 衣食住の生活 ウ 調理の基礎	(ア) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。 (イ) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。	
			生活	小学部3段階	ケ きまり	(ア) 日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする事。 (イ) 簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。
		社会の仕組みと公共施設	小学部2段階	コ 社会の仕組みと公共施設	(ア) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。 (イ) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。	
				国語	小学部2段階	C 読むこと
		国語	中学部1段階	知識及び技能	(ア) 幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知る事。	
			中学部2段階	知識及び技能	(ア) 幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知る事。	
		社会	中学部2段階	ア 社会参加ときまり	(ア) 家庭や学校、地域社会でのきまりは、社会生活を送るために必要であることを理解すること。 (イ) 社会生活に必要なきまりの意義について考え、表現すること。	
イ 公共施設と制度	(ア) 自分の生活の中での公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。 (イ) 公共施設や公共物の役割について調べ、生活の中での利用を考え、表現すること。					

るようになると、次の単元の活動に対する期待感が一層高まり、関心、意欲とスキルの向上の好循環が生まれた。このことは、長い時間をかけて取り組んだことにより、断片的で一過性の学びではなく、学びが次の学びにつながったことの成果だと考えている。

2) カリキュラム・マネジメントの視点から

平成29年改訂の学習指導要領において、各学校はカリキュラム・マネジメントに努めることが求められている。

カリキュラム・マネジメントに関して、平成30年3月の特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚園・小学部・中学部)には、「各学校においては、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を選択し、各教科等の内容相互の関連を図り

ながら指導計画を作成したり、児童生徒の生活時間と教育の内容との効果的な組み合わせを考えたりしながら、年間や学期、月、週ごとの授業時数を適切に定めたりしていくことが求められる。』⁷⁾ことが示されている。武富（2018）は、特別支援教育や知的障害教育を進めていく中で、特徴的な取組や固有の状況と考えられるもののうち、知的障害教育の実践と特に深くかかわる事項として、

- ・知的障害特別支援学校の教育課程には独自の教科が設定されていること
- ・特別の指導領域である自立活動を教育課程の柱に位置付けていること
- ・特別支援学校においては、特に必要がある場合は各教科や科目の全部又は一部について併せて授業を行うことができること
- ・知的障害のある児童生徒や複数の障害を併せ有する児童生徒を教育する場合、各教科、道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部または一部について合わせて授業を行うことができること

の4つを挙げた上で、知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメントの独自性について、「知的障害のある児童生徒の指導に当たっては、多種多様な教育課程上の工夫や配慮を実施できる状況となっており、カリキュラム・マネジメントを実施する際に、複雑に関連しあうことが予想される。」⁸⁾と指摘している。

生活単元学習の指導においては、前述のとおり、広範囲に各教科等の目標や内容が扱われる。指導計画の作成に当たっては、児童生徒の障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を踏まえ、個別に指導目標や内容が設定されるため、取り扱う教科の内容も多岐にわたる。一方、単元には、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態や生活年齢等及び興味や関心を踏まえたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであることや、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、学習活動の中で様々な役割を担い、集団全体で単元の活動に協働して取り組めるものであること、各単元における児童生徒の指導目標を達成するための課題の解決に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであることなどが求められている。⁹⁾

本報告における単元においても、表2-1、2-2、2-3、2-4、2-5に主なものとして示し

た教科の内容を取り扱った。これらの教科の内容は、生徒の興味関心や学習の継続性を重視しながら、野菜の栽培や調理等の活動を通して取り扱った教科の内容に加え、発展的な活動としてのエプロン・三角巾の制作やおもてなし会、弁当作り、図書館の利用などを通して取り扱った内容から構成される形になった。

つまり、基軸となる野菜の栽培や調理等を中心とする単元を設定し、継続的に取り組み、そこから必然的に派生した発展的な単元を織り交ぜることにより、単元を実際の生活から発展させ、自然な生活としてのまとまりのある単元として展開する中で、教科の内容についても、基軸となる単元の中では繰り返し継続的に取り扱いながら習熟や定着を図り、さらに発展的な単元の中では過去の学習と関連付けながら発展的な教科の内容を取り扱ったのである。

こうした経過は、生活単元学習を軸として教育課程を編成する際のカリキュラム・マネジメントの1つの形であると捉えることができる。児童生徒の知的障害の程度や発達段階に応じた教科の内容を配列して単元を構成するのではなく、児童生徒の生活年齢も踏まえながら自立と社会参加に向けてどのように生活を充実させるかという視点で単元を設定し、その中でどのような教科の内容を取り扱っているかについて丁寧に整理するのである。

知的障害教育においては、自立と社会参加に向けて、児童生徒が具体的に「何ができるようになったか」が重要である。学校は、児童生徒の学校生活の充実を図り、「できるようになる」ように手立てを講じるが必要であり、「できるようになる」プロセスの中で児童生徒が「何を学んだのか」を明確にしながらか教育課程の改善に努めることが重要であると考えられる。

引用文献・参考文献

- 1) 文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部），p. 30（2018），（開隆堂出版）
- 2) 文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部），p. 32（2018），（開隆堂出版）
- 3) 文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部），p. 33（2018），（開隆堂出版）

- 4) 文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）， p. 32 (2018)，（開隆堂出版）
- 5) 文部科学省：特別支援学校小学部・中学部学習指導要領， p. 76 (2017)，（海文堂出版）
- 6) 文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）， p. 26 (2018)，（開隆堂出版）
- 7) 文部科学省：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）， P. 196 (2018)，（開隆堂出版）
- 8) 武富博文：“知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント”，丹野哲也・武富博文編著， p. 28-29 (2018)，（東洋館出版社）
- 9) 文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）， p. 32, (2018)